



我が国を『創業の地』とする

日本には、アカデミアやスタートアップが有する有望な創業の「種」が数多く存在します。当課では創業の「種」が育つための環境を整備して、日本を欧米にも引けをとらない創業の地とするための政策を作っています。また、令和6年には、厚生労働省内に「ヘルスケアスタートアップ等の振興・支援策検討プロジェクトチーム」を立ち上げ、省内のみならず省庁間の垣根を越えて、現場の意見も踏まえつつ、スタートアップ振興・支援のための多くの提言を策定しました。毎年10月には「ジャパン・ヘルスケアベンチャー・サミット（J

HVS）」を開催するなど、日本の医薬産業を盛り上げるための取組を進めています。

医薬品の安定供給

ここ数年来、特に後発医薬品の供給不安が社会問題となっています。そのため、当課では、医薬品の安定供給に向けて、後発医薬品産業の構造改革に向けた環境整備を行うとともに、医薬品の増産に取り組む企業への財政的補助や、製薬企業における医薬品の安定供給体制整備に係る制度化、医療上重要な抗菌薬原薬の国産化の推進など、安定供給に必要な取組を総合的に進めています。

バイオシミラーの使用促進

後発医薬品の中でもバイオシミラーは、先行バイオ医薬品とともに、医薬品分野の中でも成長領域として期待されている分野です。そのため、従来の後発医薬品とは異なり、医療費適正化の観点に加え、我が国におけるバイオ産業育成の観点からも、使用を促進する必要があります。そこで、当課においては、バイオシミラーの普及啓発活動や製造施設の建設に係る財政的支援、バイオシミラーも含めたバイオ医薬品の製造に携わる人材の育成等、バイオシミラーの使用促進に効果的な施策を講じています。

革新的新薬から後発医薬品・OTC医薬品まで、 全部全力で支援します



セルフケア・セルフメディケーションの推進

国民一人ひとりが可能な限り健康で有意義な生活を送りながら活躍できる「健康活躍社会」を実現していくためには、限られた医療資源を有効に活用しながら、国民の健康づくりを促進することが重要です。

そこで、セルフケア・セルフメディケーションの推進のため、セルフメディケーション税制の運用や効果検証のほか、セルフケア・セルフメディケーションの周知・啓発等を進めています。



医政局
医薬産業振興・医療情報企画課 主査
栗飯原 弘樹
AIHARA Hiroki